

実践報告

札幌市立北都小学校

(1) 研究内容

研究課題：「サッポロピリカコタン」を活用した学習の研究

- 命あるものや自然を大切にするアイヌ文化について、体験的な活動を通して学ぶとともに、自分自身や友達に対し大切に関わろうとする意識を高め、社会的な差別や偏見なく生きる人間性を育む。

(2) 実践の内容

【実践】「サッポロピリカコタン」体験プログラム事業について

○ ねらい

アイヌの人たちが自然を大切にして生活していたことを施設見学や体験プログラム等を通して学ぶ。

○ 学習内容

4年社会科「昔から今へと続くまちづくり」の学習と関連させ、アイヌ民族の生活や歴史、芸術について施設見学及び体験プログラムへの参加を通して理解を深める。



アイヌ語であいさつ、「イランカラプテ」。



アイヌ語楽器の紹介と演奏

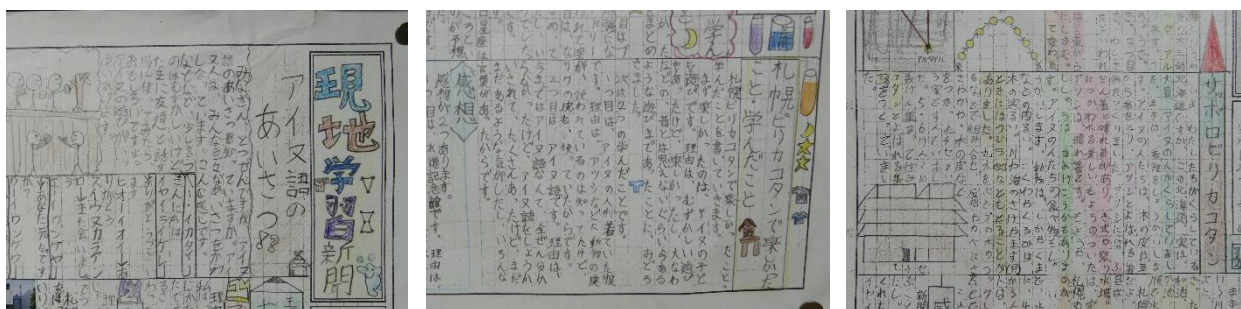


アイヌ舞踊や遊びの体験

(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ サップロピリカコタンでは、アイヌの方々（マユニタラモシリ札幌トンコリ保存会の皆様）を講師に体験プログラムを進めていただけたことで、体験だけで終わるのではなく、アイヌの方々との交流の場ともなり、差別や偏見なく生きる人間性を育む上で効果的な場となった。
- ・ 体験プログラムや施設見学により、アイヌ文化について実際に見たり、聞いたり、やってみたりしたことは、児童にとって教室での学習では得がたい、実感を伴った理解につながった。



事後の新聞づくり（まとめ）

② 課題

- ・ 「サップロピリカコタン」の体験プログラム、施設内外の展示物は充実しており、限られた時間内で何を行うのかを、ねらいと児童の実態を踏まえて決めていく必要がある。体験プログラムは、今回「アイヌの子ども遊び」を選択したが、事後学習を含めると「アイヌ文様切り絵」の方が、発展性があったと考える。
- ・ 「サップロピリカコタン」の所在地は、本校から離れた位置にあり、貸切バスの利用なしでの訪問は難しい。また、貸切バスを利用する場合、基本的に保護者負担が発生するので、なかなか校外学習を増やすことができないのが現状である。そのため、本事業のような費用助成は非常にありがたい。

④ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 社会的な差別や偏見なく生きる人間性を育むためには、まずは相手のことを知ること、理解することから始まると考える。今回、「サップロピリカコタン」を訪問し、講師のアイヌの方々と交流できたことは、児童にとって非常に意味のある場であった。人権教育に関わっては、本校では他にも総合的な学習の時間や外国語活動において、異文化交流・異文化理解のための場を設けている。一つ一つの取組が個別で終わることなく、学校の教育課程の一環として進めていくことが大切である。